



# 米国穀物レポート コーン・大豆

2015年7月14日

日本テクニカルアナリスト協会

検定アナリストCFTe

玉川博一

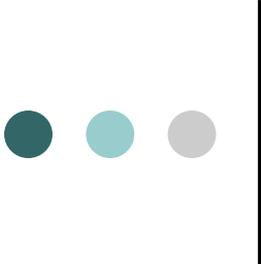
7月発表USDA需給報告

概要と分析

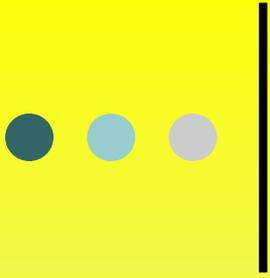
出所: 米国農務省

 岡安商事株式会社

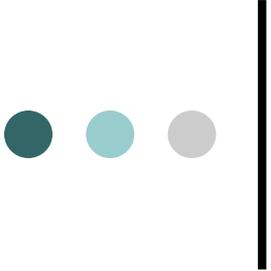




このレポートは投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。先物取引は大きなリスクを被る恐れがあり、すべての投資家に適切な取引ではありません。また、銘柄の選択および投資の最終判断およびその責任はお客様自身でなさるようお願い致します。このレポートは信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、岡安商事(株)および執筆者は、この正確性、完全性、適時性に関する責任を負いません。このレポートに示した意見は、レポートの作成日現在の意見を示すものです。チャートラインなどには、執筆者の主観が入っている場合があります。商品先物取引は元本が保証されているものではなく、短期間で大きな利益を得る可能性もありますが、投下資金の数十倍以上の額を取引する証拠金取引であるため、相場の変動により投下資金以上の損失が生じることもあります。お取引にあたっては充分にご検討下さい。当社ディスクローズ資料は当社本支店または日本商品先物取引協会でご覧いただけます。



# とうもろこし (Corn)



# 7/10日USDA発表

## 2015／16年度米国コーン

作付面積	:	8890万エーカー	(	8920万エーカー)
収穫面積	:	8110万エーカー	(	8170万エーカー)
単 収	:	166.8Bu	(	166.8Bu)
期首在庫	:	17億7900万Bu	(	18億7600万Bu)
生 産	:	135億3000万Bu	(	136億3000万Bu)
輸 入	:	2500万Bu	(	2500万Bu)
供給合計	:	153億3400万Bu	(	155億3100万Bu)
飼料用	:	52億7500万Bu	(	53億0000万Bu)
食品・種・工業用	:	65億8500万Bu	(	65億6000万Bu)
内エタノール	:	52億2500万Bu	(	52億0000万Bu)
輸 出	:	18億7500万Bu	(	19億0000万Bu)
消費合計	:	137億3500万Bu	(	137億6000万Bu)
期末在庫	:	15億9900万Bu	(	17億7100万Bu)
在庫／消費率	:	11.6%	(	12.9%)

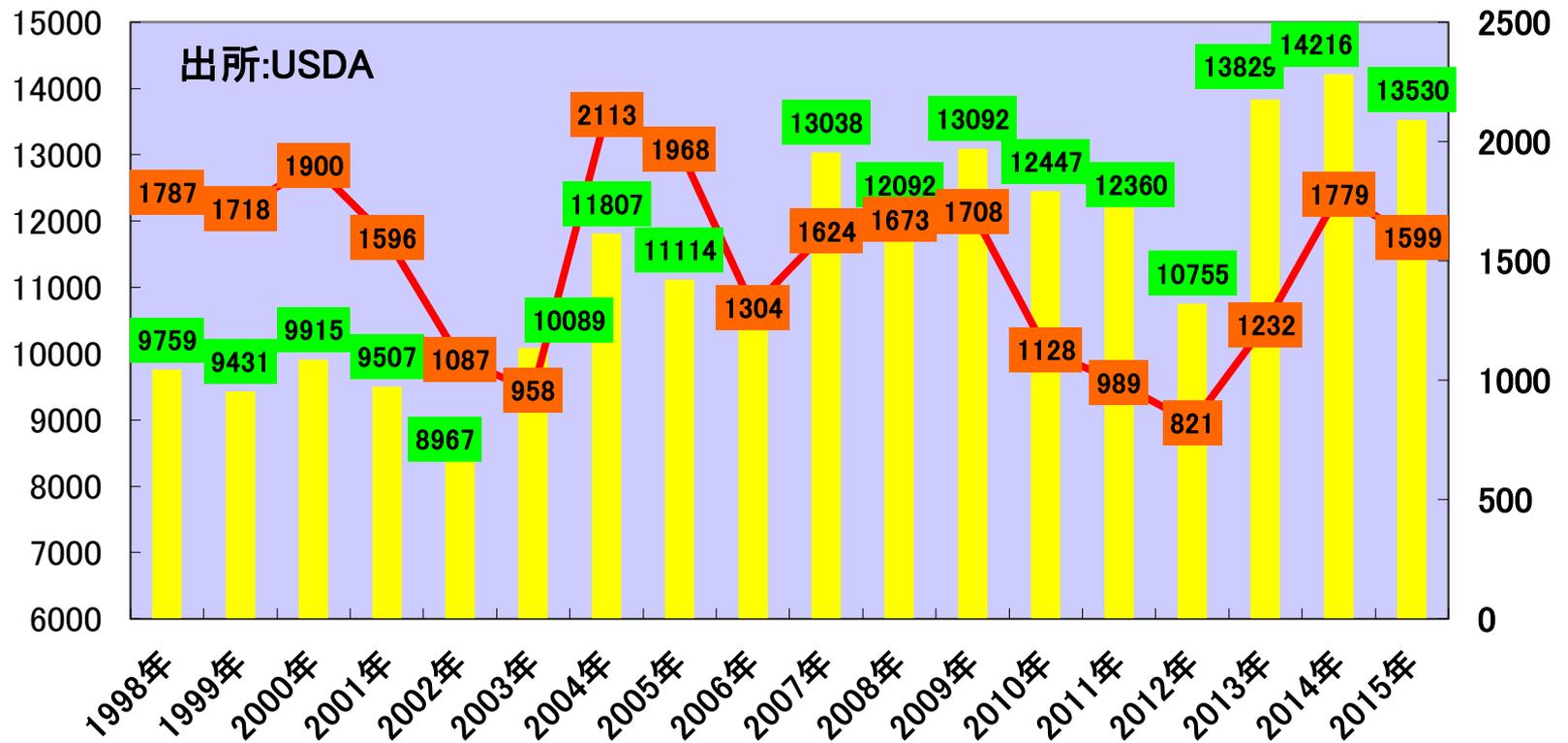
# 米国コーン期末在庫は旧穀-9700万Bu、 新穀1億7200万Buの下方修正。

- 2014/15年飼料を5000万Bu、エタノール2500万Bu、輸出を2500万Bu引き上げで旧穀期末在庫は予想以上の下方修正。
  - 2014/15年度米国コーン期末在庫を17.79億Buに下方修正し、予想平均の18.09億Buを下回りました。新穀は15.99億Buに下方修正しましたが、予想平均の15.08億Buを上回りました。
  - 予想されたイールドの引き下げはなく、米国コーン生産高見通しは作付減で135.30億Buに下方修正しましたが、予想平均の133.95億Buを上回りました。
  - 旧穀の需要を9900万Bu引き上げ、新穀の期初在庫が減少することとなりました。
  - 新穀は、それぞれ2500万Buづつエタノールの引き上げと飼料、輸出の引き下げ。

# 2015/16年期末在庫は、1億7200万Buの 下方修正

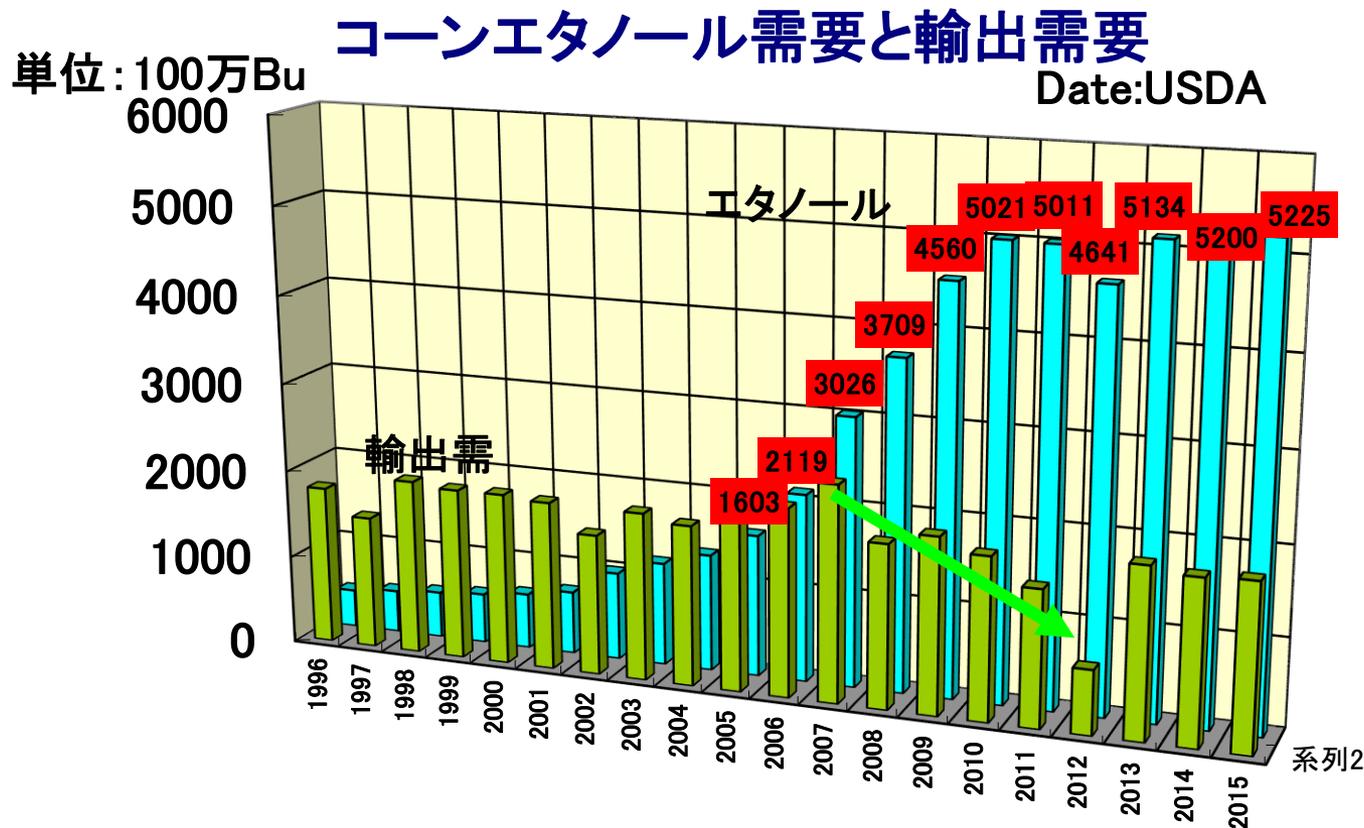
## 米国コーン生産高と期末在庫

百万Bu



# エタノールと輸出需要推移

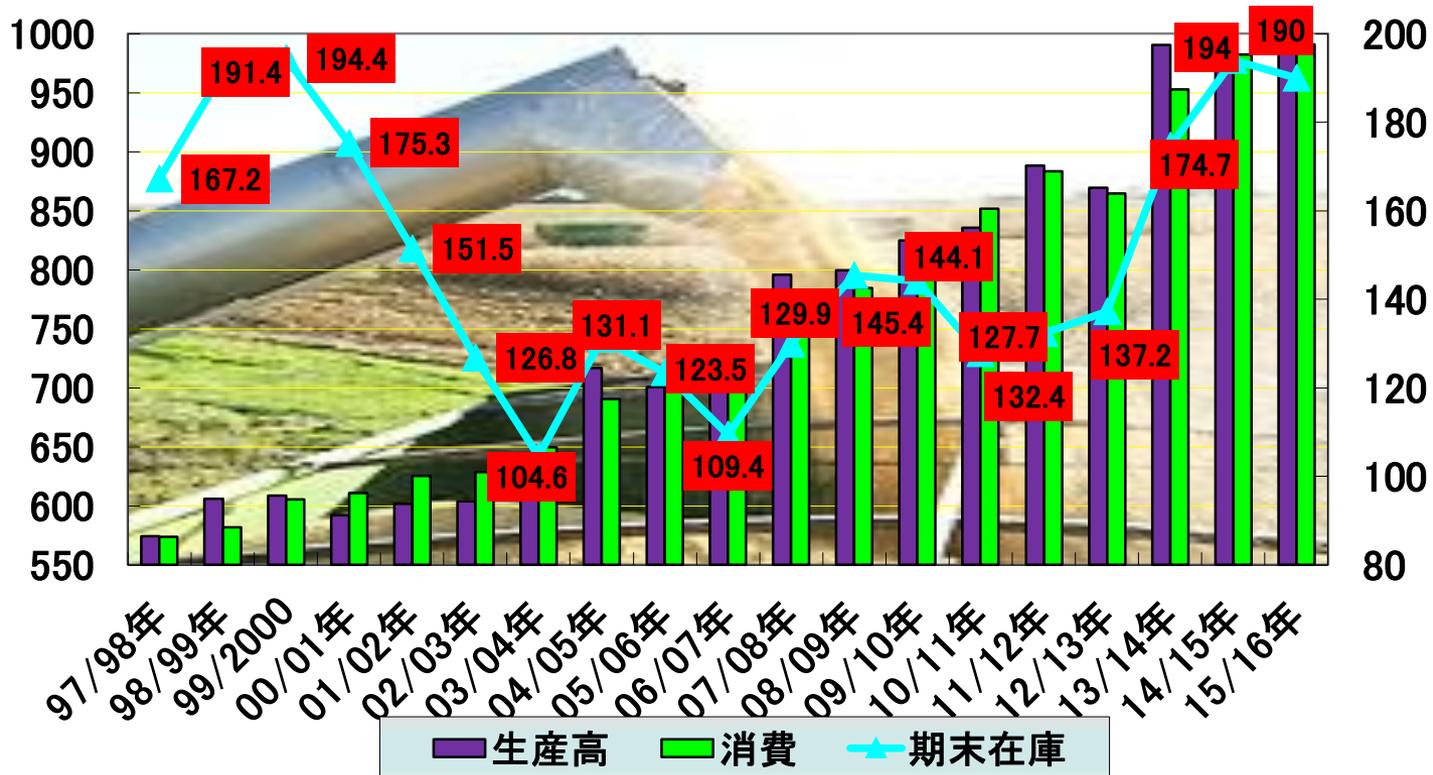
エタノールは旧穀、新穀とも2500万Bu上方修正



2014/15年世界期末在庫は1億9395万トン  
 2015/16年世界期末在庫は1億8995万トンに下方修正

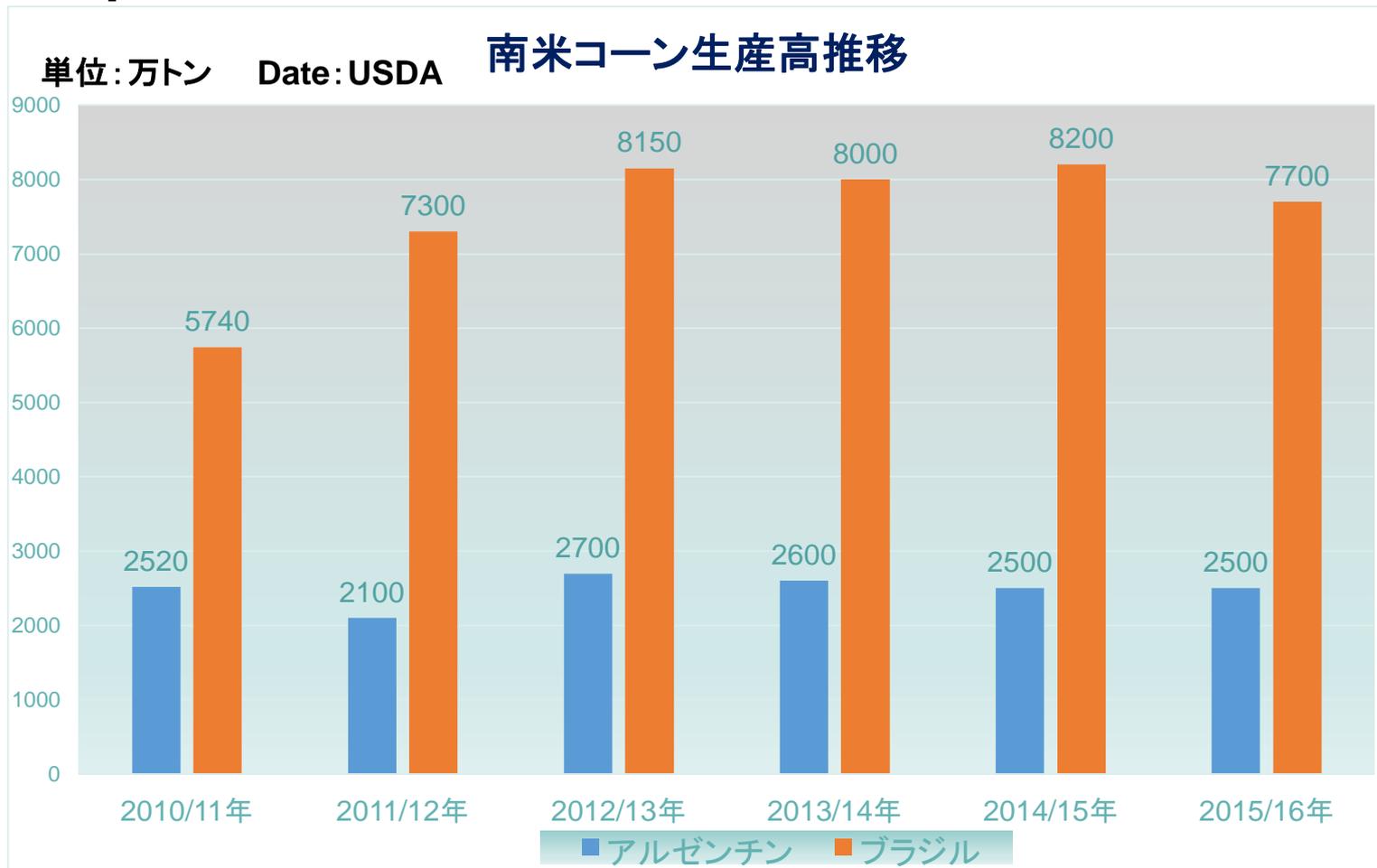
## 世界コーン需給

単位:百万トン Date:USDA



# 南米コーン生産高推移

ブラジル生産高新穀+200万トン、  
旧穀+100万トンの上方修正

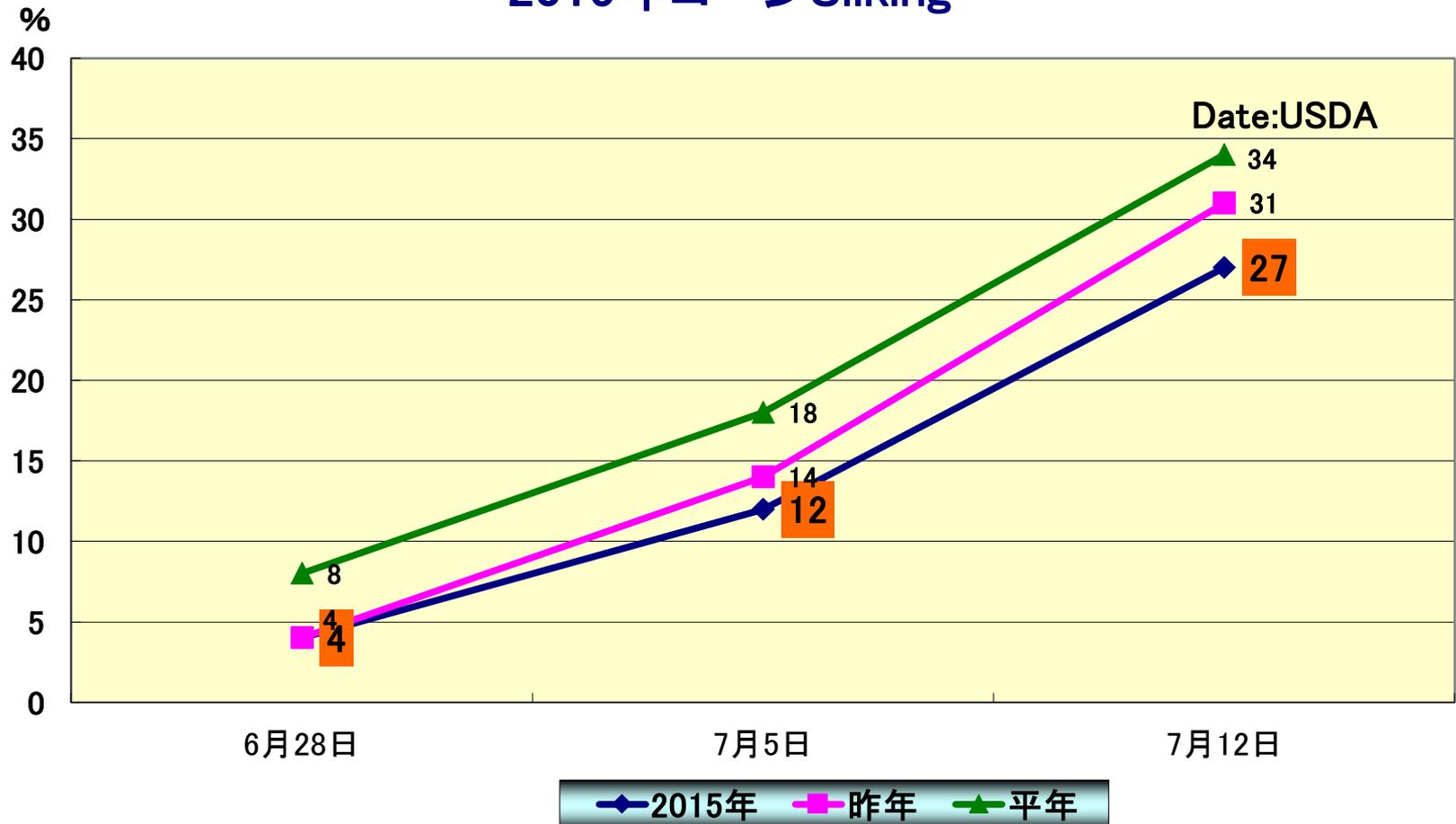


## 世界コーン需給

- 2014/15年世界コーン生産高は、前月から228万トンの引き上げで10億173万トンと史上初の10億トン超えとなりました。ブラジル生産高が前月から+100万トン(8100→8200万トン)EUが+135万トン(7367→7502万トン)引き上げられました。2014/15年世界コーン期末在庫は、消費増で1億9395万トンと前月から306万トンの下方修正となりました。
- 新穀2015/16年世界コーン生産高はブラジル+200万トン(7500→7700万トン)、中国+100万トン(22800→22900万トン)引き上げられましたが、米国-254万トン、EU-236万トン、セルビア-30万トン、フィリピン-20万トンの下方修正により2015/16年世界期末在庫は1億8995万トン(予想平均1.926億トン)と-524万トンの下方修正となり予想を下回りました。

# 7/12時点シルキング27%終了 受粉の真っ只中

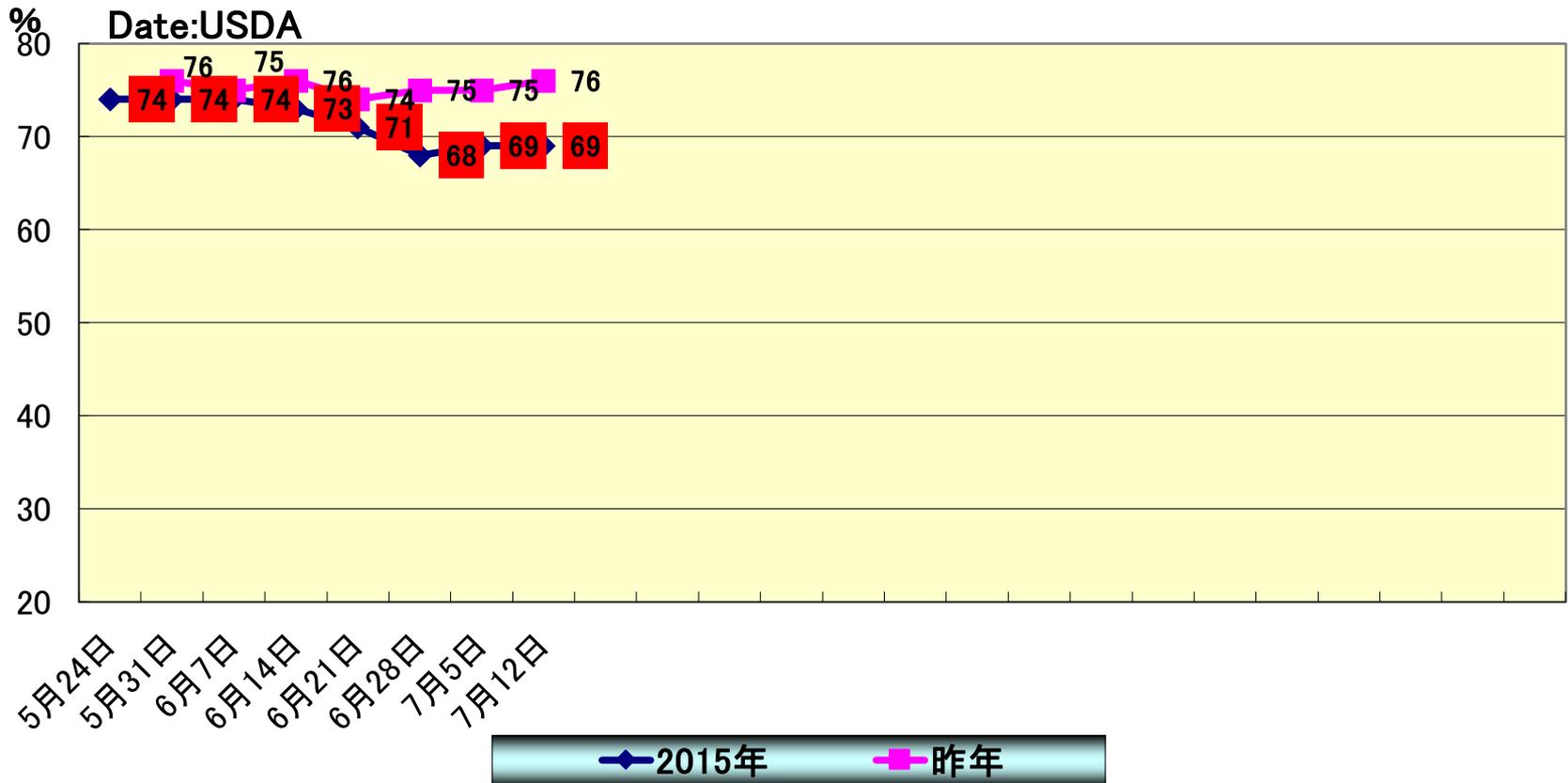
## 2015年コーンSilking



# コーン作柄状況

7/12時点、優+良69%

## 2015年コーン作柄状況(主要18州)・優+良比率





# 結論

- シカゴコーンは期近ベースで6月中旬から豪雨によ作物悪化懸念から急騰、6/15安値346.75セントから7/10の高値431セントまで値を飛ばし2014年7月以来の水準を回復した。6月末発表の米四半期在庫が44億4700万ブッシェル、作付面積報告が8889万7000エーカーとそれぞれ予想を下回ったことも押上げ要因となった。今回のUSDA発表では、旧穀需要の引き上げに伴う旧穀期末在庫の減少、新穀期初在庫の減少となり、やや需給が引き締まった感があり、一段の上昇となった。ただ旧穀在庫が予想を下回ったものの、新穀在庫、生産高は、予想を上回り、サプライズというほど強い数字ではない。世界需給では在庫が下方修正だが、ブラジル生産は旧穀、新穀とも上方修正で好調、旧穀の生産高は初めて10億トン超え。
- 2008年豪雨による洪水で急騰した時は作物状況優+良以上が6/15に57%まで落ち込んだが、今年7/12現在の作物状況の優+良の比率も69%となっており、思ったほど悪いというわけではない。
- テクニカル的には10日までシカゴ8連続陽線で押し目買い意欲は強いが、過熱感あり、目先は、リバーシングのタイミングをはかりたい。

# 東京コーン先限日足

JGCC (東京とうもろこし) - 日足 - ローソク足 (始, 高, 安, 終値) 2015/07/14 L=28,560 0 0%



14日



# 大豆 (SoyBean)

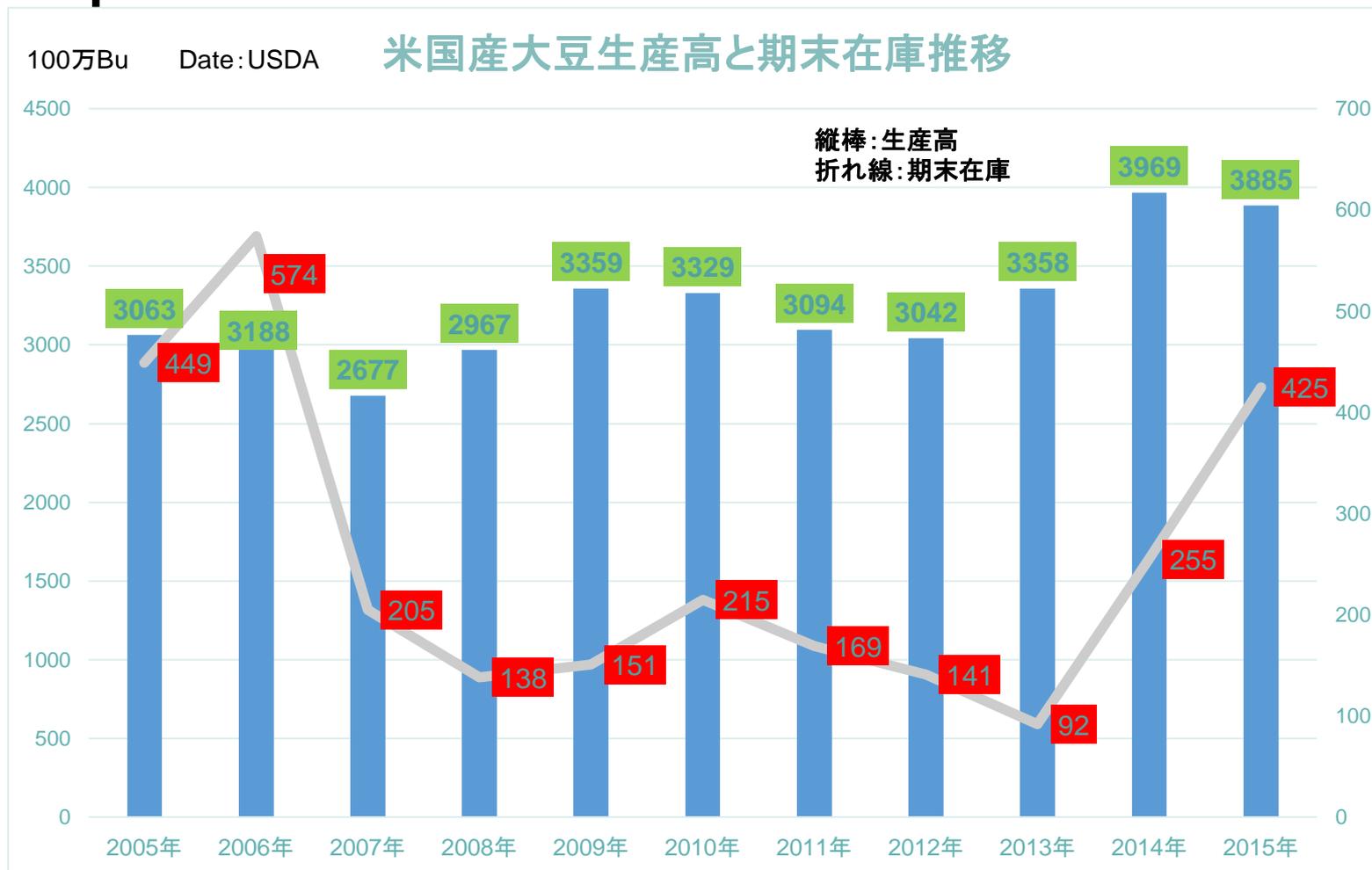
# 7/10発表USDA大豆需給報告

## 期末在庫は4億2500万buに下方修正

### 2015／16年度

作付面積:	8510万エーカー	( 8460万エーカー)
収穫面積:	8440万エーカー	( 8370万エーカー)
単収	: 46.0Bu	( 46.0Bu)
期初在庫:	2億5500万Bu	( 3億5000万Bu)
生産	: 38億8500万Bu	(38億5000万Bu)
輸入	: 3000万Bu	(3000万Bu)
供給合計:	41億7000万Bu	(42億1000万Bu)
圧砕	: 18億4000万Bu	(18億3000万Bu)
輸出	: 17億7500万Bu	(17億7500万Bu)
種子その他:	1億3000万Bu	(1億3000万Bu)
消費合計:	37億4400万Bu	(37億3400万Bu)
期末在庫:	4億2500万Bu	( 4億7500万Bu)
在庫率	: 11.3%	( 12.7% )

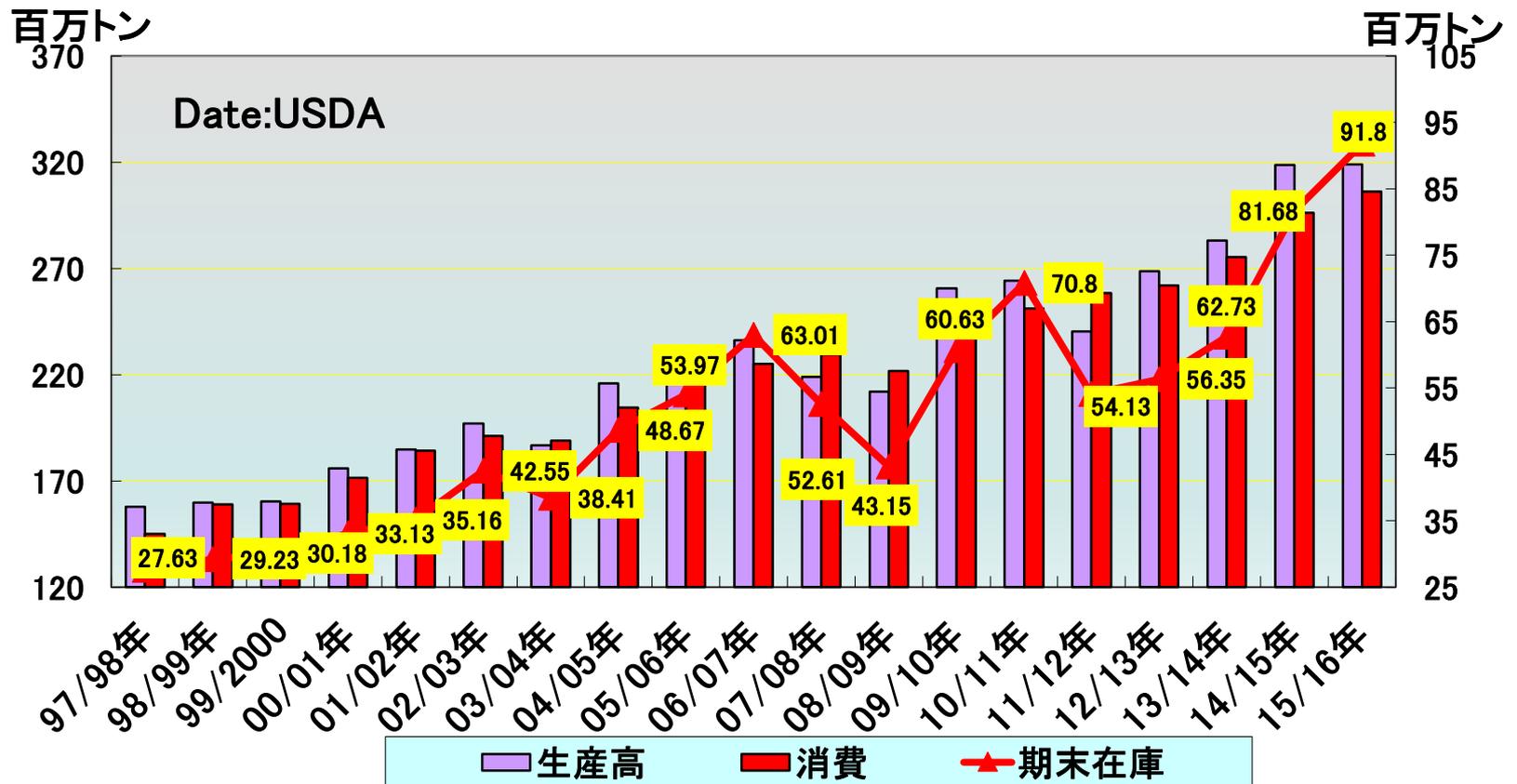
# 2015/16年米国期末在庫は5000万Buの下方修正



# 世界大豆需給推移

2015/16年世界期末在庫も2年連続で過去最高更新見通したが、前月から142万トンの引き下げ。

## 世界大豆需給



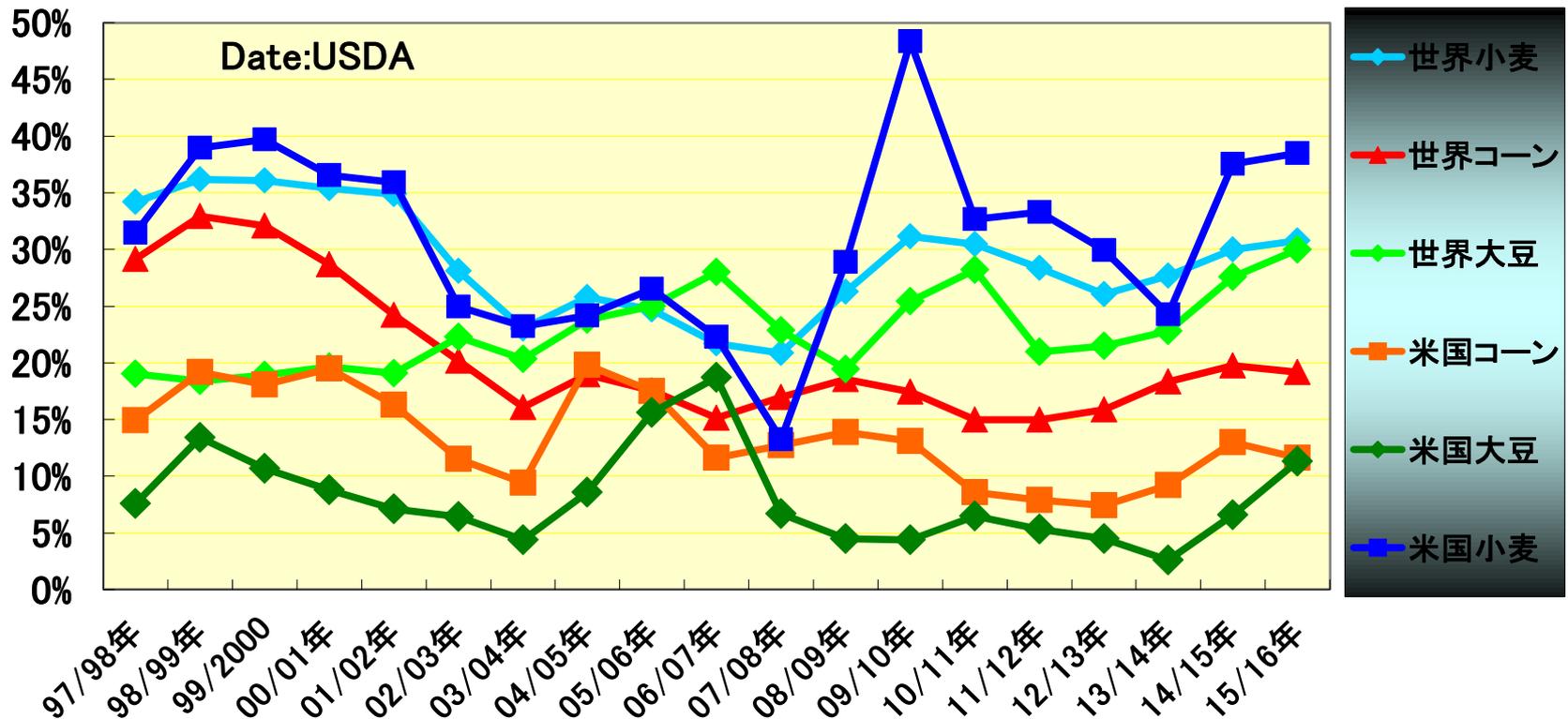
# 世界大豆需給

- 2014/15年度世界大豆生産見通しは3億1860万トンと前月から35万トンの上方修正となりました。アルゼンチン生産高が+50万トン(5950→6000万トン)に増産、ブラジル生産高が9450万トンに据え置きとなりました。2014/15年世界大豆期末在庫は、予想8300万トンを下回り、8167万トンと前月から202万トンの下方修正となりました。2015/16年世界大豆生産高は3億1892万トンと米国増産により、134万トンの上方修正、2015/16年世界大豆期末在庫は、前月から142万トン引き下げて9180万トンとなり、予想9230万トンを下回りました。しかし、2年連続で過去最高を更新する見通しとなっている。

# 世界穀物在庫率推移

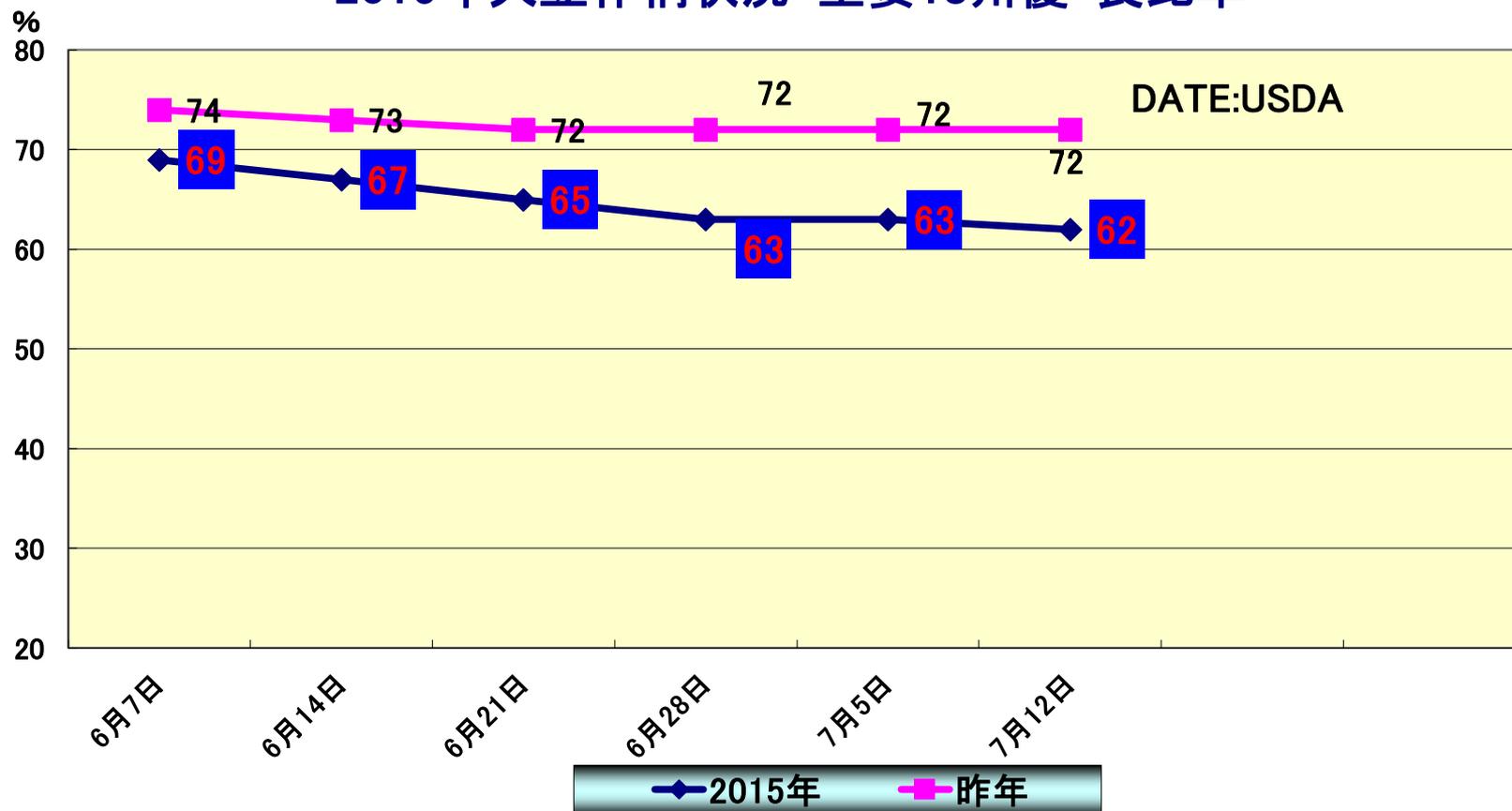
穀物の中で一番大豆が需給緩和がすすむ。

## 穀物在庫率推移



# 米国大豆作柄状況

## 2015年大豆作柄状況・主要18州優+良比率



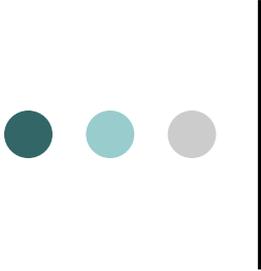
# 結論

- 旧穀の圧砕、輸出で+3000万Bu、種子、その他で4500万Bu引き上げられ、旧穀期末在庫が2.55億に下方修正され予想平均2.92億Buを下回り、強気の数字となった。新穀の圧砕で+1000万Buの引き上げがあったものの新穀大豆の生産高は38.85Buに3500万Bu引き上げられた。引き下げの予想平均37.94Buを大きく上回り弱材料。
- 7/12現在のクローププログレスによると大豆開花率38%（平年37%）、着サヤ率6%（平年7%）と平年並みに進捗している。作柄状況の優+良の比率は、62%と前週から1ポイント悪化した。

# 一般大豆先限日足

JGSS (東京一般大豆) - 日足 - ローソク足 (始, 高, 安, 終値) 2015/07/14 L=55,440 0 0%





商品先物取引業者：岡安商事株式会社

【本店】

TEL:06-6222-0001 FAX:06-6203-7700

〒541-0041 大阪府大阪市中央区北浜2-3-8

【東京本部】

TEL:0120-342825 FAX:03-5641-1725

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町1-1-1

日本商品先物取引協会会員  
経済産業省 平成22・12・22商第6号  
農林水産省指令22総合第1351号

- ・お客様相談窓口  
大阪本社管理部  
TEL:0120-346-492  
東京統括店管理部  
TEL:0120-182-461
- ・商品先物取引苦情相談センター  
日本商品先物取引協会(東京)  
TEL:03-3664-6243



- ・当社の企業情報は、当社本支店及び日本商品先物取引協会またはそれぞれのホームページで開示されています。
- ・商品先物取引は委託に際して委託者証拠金の預託が必要になります。最初に預託する委託者証拠金の額は商品により異なりますが、最低取引単位(1枚)当り最高170,000円、最低8,400円です。但し、その後の相場の変動によって追加の預託が必要になることがありますので、注意が必要です。また、その額は、商品や相場の変動によって異なり、一様ではありません。  
損失限定取引(スマートCX)は通常の商品先物取引とは異なり、最低取引単位(1枚)当り最高1,150,000円が必要となります。
- ・商品先物取引による取引の額は、最初に預託する委託者証拠金の額に比べて著しく大きい額となります。具体的には、商品によっても異なりますが、対面通常取引の場合は委託者証拠金の額の約15倍から約55倍、対面損失限定取引(スマートCX)の場合は委託者証拠金の額の約2倍から約8倍の額にもなります。
- ・商品先物取引は、相場の変動によって利益も損失も生ずるおそれのある取引です。また、委託者証拠金の額に比べて何十倍もの金額の取引を行うため、その利益や損失も預託している委託者証拠金等の額に比べると高いものとなることがあります。
- ・商品先物取引の委託には委託手数料がかかります。その額は商品によって異なりますが、最低取引単位(1枚)当り最高8,100円、最低540円(片道税込み)です。  
損失限定取引(スマートCX)は通常の商品先物取引とは異なり、最低取引単位(1枚)当り最高12,150円、最低1,555円(片道税込み)が必要となります。(平成27年7月1日現在)